

## 南小たば風通信 2019

令和二年1月21日 第28号

## 子どもが幸せになる#授業～幼稚園・小学校・中学校・特別支援がつながる！

北海道ムーブメント研究会の冬季講習会の講師は、高倉弘光先生でした。子どもの育ちを「考える力」や「感じる力」、そして「身体（からだ）」を視点にとらえ、音楽活動を通して子どもを育てていくことを研究しています。教育の結果としての「わかる」「できる」だけではなく、教育の過程「どのようにして」を大切にしています。そして、この会の講習会では、筑波大学で音楽の研究をされている高倉先生や平野先生を講師に招いて、音楽の授業についてみんなで音楽を考えています。音楽専門の先生だけがわかる授業ではなく、音楽が苦手な先生も子どもたちも楽しんでできる授業のヒントが満載です。今回もたくさんの受講者がいました。



高倉弘光 氏：筑波大学附属小学校教諭

多数の大学でゲスト講師を務める。北海道旭川市生まれ。北海道大学教育学部卒業。リトミック指導者国際ライセンス取得。教育出版教科書著書。文部科学省・国立研究所研究協力委員（学習指導要領解説作成協力他）。NHK番組「音楽ブラボー」政策企画委員

## 高倉先生のお話

急速に社会が変化していつている時に、何が正解かわからなくなってきています。厚生労働省の資料を見ると、今の6年生で平均寿命が107歳になるといわれています。

文部科学省では、3つの資質能力を「はじめて資質能力ベースで書き替えました。」と言っているが、新学習指導要領は、新しいことは言っていないと感じています。では、何が違うのか？目の前の今の力だけをつけるのではなく、107年間を見通しているということです。人生100年時代をどうやって幸せを感じながら生きていけるようにするのか？そのために知識・技能、思考力・判断力を培うことやこの授業が子どもたちにどんな影響があるのかということを考えて授業づくりをすることが大事になります。教育出版6年生の「運命」は、筑波大学の中島先生が書いた授業プランです。人生を豊かにするために、自分なりの音楽の聴き方をし、音楽を楽しむことができるようになったら素敵ではないでしょうか。自分の幸せは、自分でなければわからない。自分の人生は自分で作っていくことができる子、そして、自分の頭で考える子を育てたい。

一番初めの授業で、「音楽の時間は聴くことが大事だよ。」と子どもたちに伝えます。将来、子どもたちが就く仕事は、難しいことの連続です。感動体験を沢山していると、「みんなで頑張れば何とかなるかもしれない。」と思えますが、失敗体験を沢山していると、難しいことにぶつかった時に「や～めた！」と仕事を辞めてしまうことになります。体を動かすと仲間と心がつながります。音楽の授業の中でも、仲間と協力して作り上げる成功体験を積み重ねていくことを続けていくとは大切なことだと考えます。

今までの鑑賞の授業は、児童が受け身で知識を増やしていくことと思われていて、創造的に音楽に関わることはしてきませんでした。子どもたちに「深い学び」をさせようとする、時間が必要になります。普段の計画のどこかをはしょってでも「深い学び」を実現する時間を作る必要があると考えます。本来子どもたちは、「動くこと」「作ること」が好きです。鑑賞では、最終的にその曲になりきることで動きを作った（身体表現）結果、グループで全く同じものができあがることはありません。それぞれのグループがみんな違う表現をすることになります。仲間と話し合い、自分たちが納得する解を作ること（納得解）を音楽の時間で積み重ねていきます。

「人生は、即興！さあ、やってみよう！」（って、高倉先生、かっこよすぎでしょう！稲船）

## 《第一部》

① 新学習指導要領をわかりやす〜く解説！（資料参照）

② ムーブメント基本エクササイズ

・音楽は何かのルールにのっとって音を並べることです。

例：速く・遅く ルール破りをするのも 二回連続して等

① みんなで丸くなって、拍を送ろう！ **ルールで作る**

・拍手・・・一人1回、一人2回、一人3回

・一定の速さで、自分のタイミングで、小→大など

① 手をクロスして順番に拍を送る。

・相手の手と自分の手がクロスしているので

一定の拍で打つことが難しい。仲間との協力が大切。

♪なべなべそ〜こぬけ そ〜こが抜けたらかえりましょう♪ （1人→2人→4人→8人→円）



♪アルプス一万尺♪ いつもの手遊び（2人で→4人で） **フリース <曲のまとまり>**

「どうやったらうまくできるのかグループで考えてみましょう。」腕が交差したり、上下で拍手



♪おちゃらか♪ **だんだん速く=速度** **大きさを変える=強弱**

コミュニケーション

創造性



ピアノ伴奏を  
変えてみる。

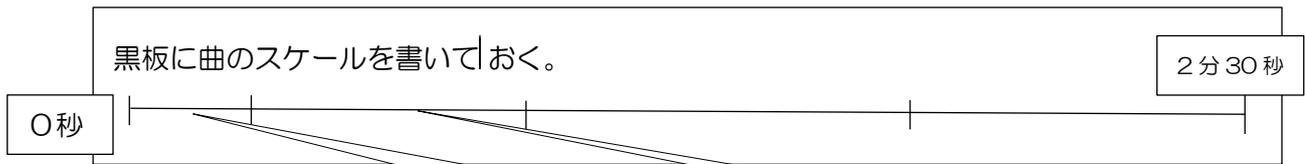
♪BINGO♪

・はじめは、一人ずつ 手を打つところは、何もしない。 **拍を感じる**

・5人グループになって、先頭の人が「BINGO」で好きなポーズをとる。後ろの人はそれを真似する。間奏で、先頭が入れ替わり、5人全員が先頭を経験したところで曲が終わる。

高倉先生の授業プランです。受講者全員で体感してみました。

鑑賞「シンコペッドロック」 二学年「ゆかいな時計」



- ① 今から2分30秒の曲を聴かせます。 カッコカッコ (ウッドブロック) 鳴っていない所
- ② 時計の音楽だよ。  
※いつもなら題名は知らせずに音を聴かせるが、  
この曲は、冒頭に出てくる音が現代の子どもたちには時計の秒針に聴こえないことがある。  
時計なのか又はそれ以外なのか、この議論で時間を取られることをさけるためにあらかじめ  
「時計の音楽」と伝えておく。
- ③ では、聞いてみましょう。(はじめの4秒だけを聴かせる)
- ④ どのへんが時計だった? 児童「かっこ、かっこ」って鳴っていた。
- ⑤ 何の楽器だと思う? 3つのうちから選んでね。
- ⑥ Aウッドブロック Bトライアングル Cタンブリン  
児童「Cのタンブリンだと思う。」児童「Aのウッドブロック」  
(常時活動で楽器を沢山触らせておくと、すぐに児童から答えが出てくる。)
- ⑦ じゃあ、どこまでがウッドブロックが鳴っているのかな? ウッドブロックを打つマネをして  
聴いてみよう。(身体ムーブメント)立ってね。  
(タ タ タン) =シンコペーション=いつも同じじゃないところにアクセントがくる。  
石につまづくように。
- ⑧ 次はこの辺まで聴くよ。(黒板の図を示しながら)  
※また腕を左右に振りながら聴く。(ウッドブロックの音色)  
シーン!!という目覚まし時計の音を聴くと・・・児童「目覚まし時計だ～」と反応する。
- ⑨ なんていう題名だと思う?  
児童「壊れていく時計」「昔の壊れている時計」など
- ⑩ 仕上げは、グループでこの音楽になってみよう。  
高倉先生は、この時間をとても大事にしているとのこと。

「もし、音楽がなくなっていてもこの曲だってわかるように動いてみて。」と投げかける。「おちゃらか」の体験がこの時にいきてくる。(2人で□4人で□8人で) そうしているうちに音楽のときにずっと動くようになる。逆に音が鳴っていない時には動かないこと。ずっと音楽をかけているうちに作ることに夢中になって、音を聴かなくなってしまう(子どもの6割が、関係なく動く。3割が聞いている。1割がどうでもよい。)ので、そのような様子が見られたら、もう一度しっかり聴くように促す。

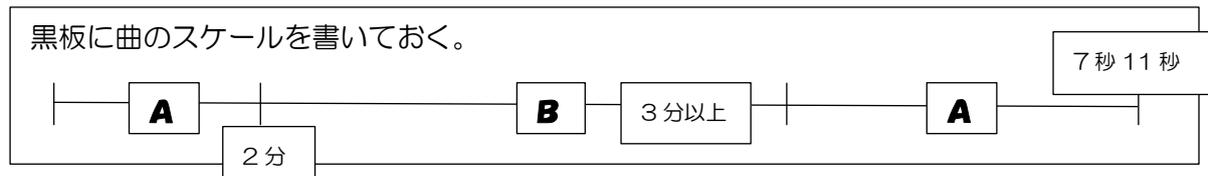


グループ



最後は、一人ひとり

### 6年生 鑑賞「春の海」7分間…長いし、どうやって聴かせようかな??



音そのものと向き合ってほしいということから、「春の海」という題名は言わないで聴かせる。ABA “という構成になっている。Bから聴かせる。

- ① 今から音楽を聞かせます。どの国の音楽だと思いますか？（30～40秒）

児童「日本」

それ以外は？（挙げられた国の名前を黒板に書く）

児童「台湾」「中国」

どうしてそう思ったの？

児童「琴の音色」「三味線」「日本の料理のお店でかかってそう」

実は、この音の楽器は「琴」「尺八」だよ。

音色がそう思わせているみたい。  
音階かも・・・。

- ② 二つの楽器が同時になっている時は、立たないよ。

※学級を半分に分けて、片方は「琴」もう片方は「尺八」で立たせる。

身体反応＝身体を使うと音が意識できる。

児童「尺八□ 琴」の順番が逆のこともあった。などの気づきが生まれる。

- ③ ところで、この曲は何拍子だったの？

児童「4分の4」

- ④ この曲には、最初の部分があるんだ。（拍子を振りながら聴いてみる）

※児童が上手く拍子をふれないことに気づく。

どうした？児童「なんかへん」

これが日本の音楽の特徴なんだよ。拍が伸び縮みする。

- ⑤ B□A□（ ）A?B?

次はAかな?Bかな?なにがくるとおもう?



#### その他

※「問いと答え」琴を2つ用意して交互に弾かせる。

・柱を調整して、弦を順番に弾けばメロディーになるようにしておく。

※教師がこの題材を使って、学ばせたいことをフォーカスすることが大切。

・問いと答え ・楽器（尺八・琴）

※まとめは、板書そのものがまとめになる。時には、強調して書いて。

※評価について

・最後に身体表現をさせる（3～4時間）

・曲を予測して次の動きに動こうとしている時にはA AかBでCはつけない。

・お手紙形式で教えたいことが何個か書けたかで評価するときもある。

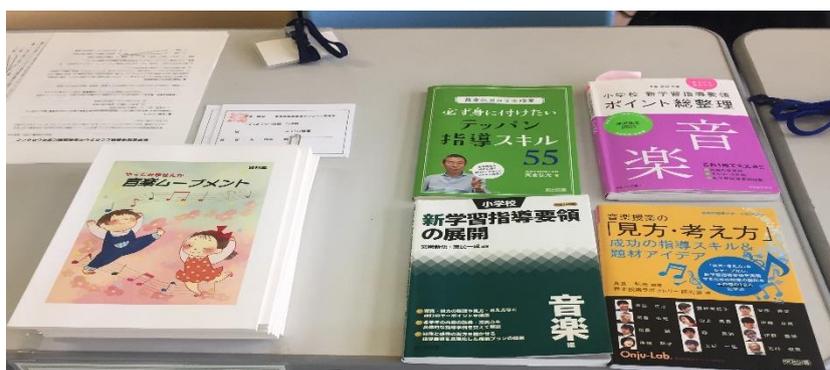
## 稲船志津子 感想

今回もやる気を引き出してくれる講習会でした。音楽は好きだけど、どうやって授業をしたらいいのかわからない時に、高倉先生やムーブメントの部員の中村先生からヒントを沢山いただきました。全国音楽研究大会が終わった時には、準備を始めた3年前よりは、子どもも私も楽しく授業をすることができるようになりました。

全国の小学校の先生の中には、私と同じように音楽の免許はなく授業を進めている方が沢山います。そして、教えた方に悩む先生が沢山いると思います。教師が子どもたちと一緒に「音を楽しめる」ようになったら、「なんとなく音楽が好き な子」から「本当に間違いなく音楽が大好き な子」に変身させることができると思っています。

また、鑑賞の授業で、曲の感想を書かせる授業をした場合に文章がうまく書けない子は、C評価になってしまうことがあるかもしれません。しかし、鑑賞曲を「身体で感じて動くこと」で、十分に曲を聴き取っていることがわかる授業ならC評価にはなることはありません。そして、全員で音楽を楽しむことができます。特に普段からじっとしてられない動きたい子が沢山活躍することができます。今回は、高倉先生の授業プラン（2年生・6年生）を紹介しました。先生も子どもも一緒に動いて楽しい鑑賞の授業を是非試してみてください。

※今回の冬季講習会は、雑誌 教育音楽 小学版に掲載予定です。



お薦めの書籍です

今回の講習会のおすすめの書籍です。

音楽のことを知りたい方は、本屋さんで是非どうぞ！！